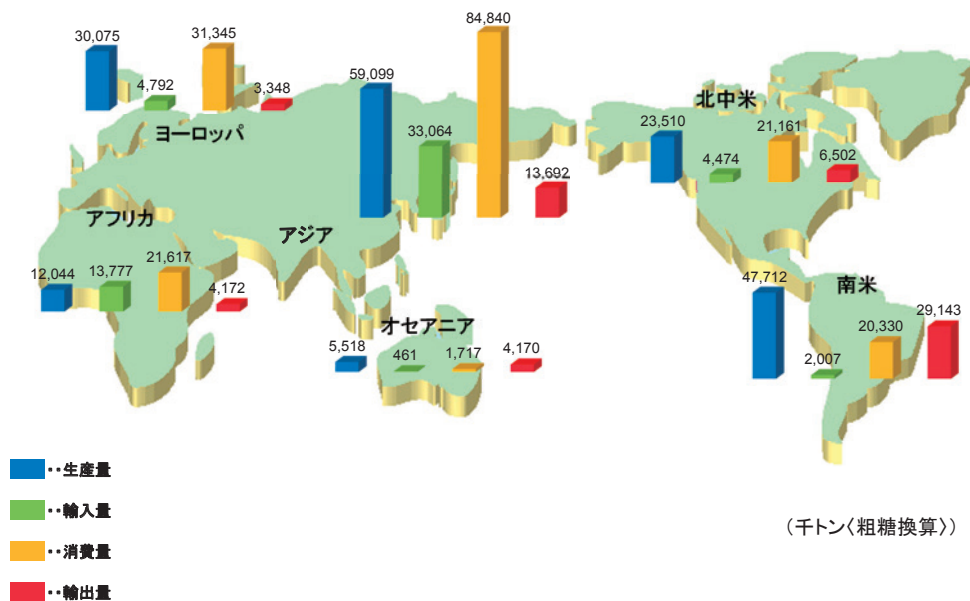


砂糖の国際需給

調査情報部 根岸 淑恵

1. 世界の砂糖需給（2017年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,March 2017」
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)

注1：年度は2016年10月～翌9月。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年3月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2016/17砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億7796万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比1.9%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。これは、主にアジア以外の大半の地域で、生産量の増加が見込まれているためである。特に、前年度に在庫抑制などの要因から大幅減産となったEUは、

2017年9月末の生産割当廃止を目前に、生産量の回復が見込まれている。

一方、同年度の世界の砂糖消費量は、人口増加や経済成長に伴い、アフリカやアジアで堅調に推移していることから、1億8101万トン（同0.5%増）と見込まれ、前年度に続き生産量を上回ることが予想されている。

そのため、期末在庫率は前年度から3.2ポイント低下し、36.2%と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,518	151,603	49,849	161,842	50,974	60,155	37.2
2012/13	64,079	184,166	59,150	171,636	61,545	74,214	43.2
2013/14	74,214	181,496	58,461	175,802	59,205	79,164	45.0
2014/15	79,164	180,683	58,414	178,723	59,548	79,990	44.8
2015/16	79,990	174,678	62,976	180,028	66,611	71,005	39.4
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9
2016/17 (2017年3月予測)	71,005	177,958	58,575	181,009	61,027	65,503	36.2

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,March 2017」

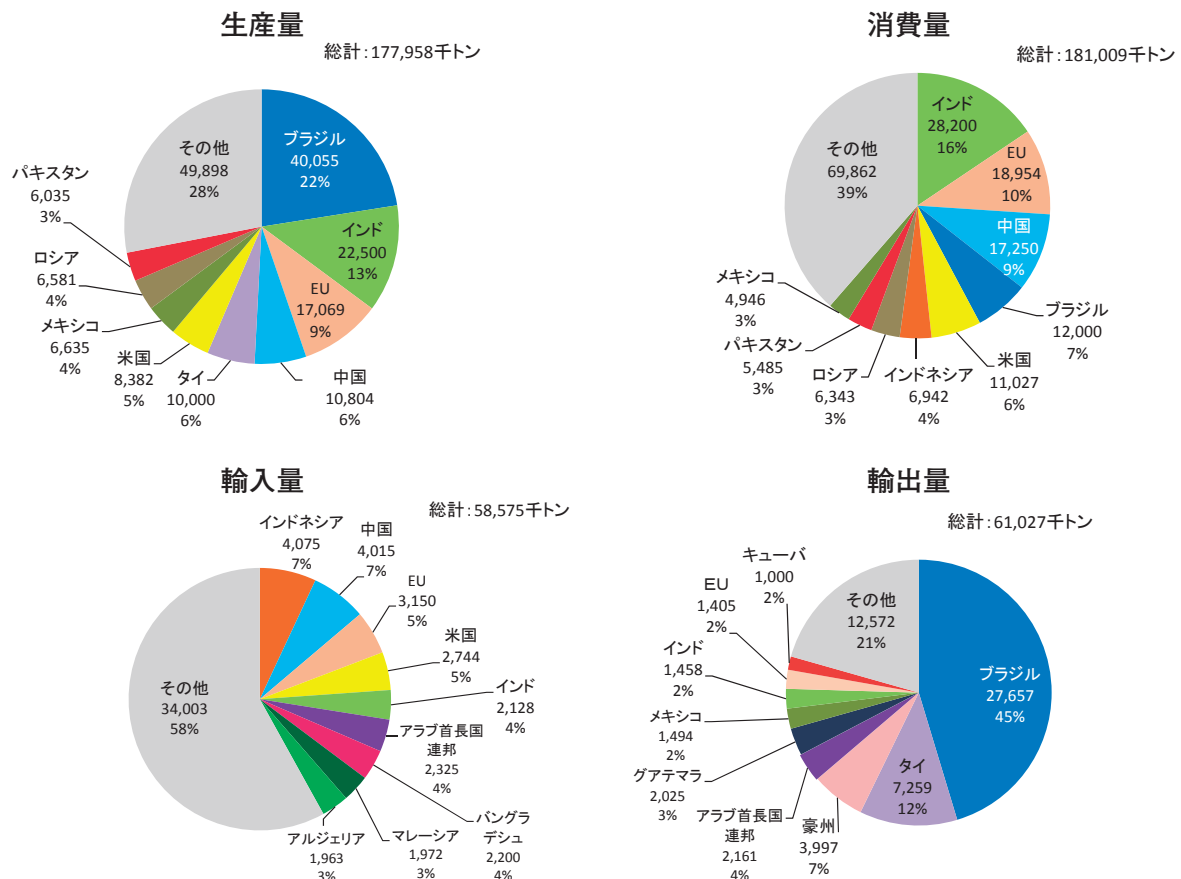
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

2. 主要国の砂糖需給（2016/17年度3月予測値）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量



資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,March 2017」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：主要国（上位9カ国）とその他を表示。

注3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

【生産量】

2016/17年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量については、最大生産国であるブラジルが、4006万トン（前年度比1.1%減）とわずかな減少が見込まれている（図2）。これは、天候不順のため年度を跨いで収穫する面積が多く含まれた前年度に対し、今年度はその部分があまりないと見込まれ、サトウキビ収穫面積の減少が予測されているためである。

また、インドは、主要生産地域であるマハラシュトラ州やカルナタカ州において干ばつの影響によるサトウキビ生産量の減少により、製糖工場が早期の操業終了を余儀なくされていることから、2250万トン（同17.8%減）と大幅な減少が見込まれている。さらに、タイも、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みにとどまり、中国の増産により、生産量第5位に転ずると見られている。

一方、ロシアは、てん菜栽培面積の拡大や生育時期の天候に恵まれたことによる単収の向上から、658万トン（同14.3%増）とかなりの増加が見込まれている。また、パキスタンは、サトウキビ栽培面積の拡大に伴い、604万トン（同8.5%増）とかなりの増加が見込まれている。

【輸入量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸入量については、政府が備蓄在庫の放出を開始したことにより、中国が402万トン（前年度比35.2%減）と大幅な減少が見込まれている。そのため、インドネシアが408万トン（同4.7%減）とやや減少するものの、中国を抜き最大の輸入国になると見込まれている。

また、砂糖の増産が見込まれているEUや米国も、それぞれ315万トン（同15.4%減）、274万トン（同9.2%減）と、ともにかなりの減少が見込まれている。

一方、インドは、213万トン（同11.8%増）と

かなりの増加が見込まれている。この背景には、輸入関税の撤廃もしくは引き下げが行われる可能性がある。

【消費量】

2016/17年度の主要国の砂糖消費量については、経済成長や人口増加の著しいアジア圏で増加が見込まれており、最大消費国のインドは2820万トン（前年度比1.3%増）、第3位の中国が1725万トン（同1.1%増）と見込まれている。また、インドネシアとパキスタンは、旺盛な国内需要によりそれぞれ694万トン（同2.3%増）、549万トン（同3.0%増）と、ともにやや増加が見込まれている。

【輸出量】

2016/17年度の主要国の砂糖輸出量については、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2766万トン（前年度比7.2%減）とかなりの減少が見込まれている。

また、インドは、高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、政府が輸出関税の導入や製糖企業に対する保有在庫の上限設定を行っていることなどから、146万トン（同64.5%減）と大幅に減少し、前年度の第3位から第7位に転ずると見込まれている。

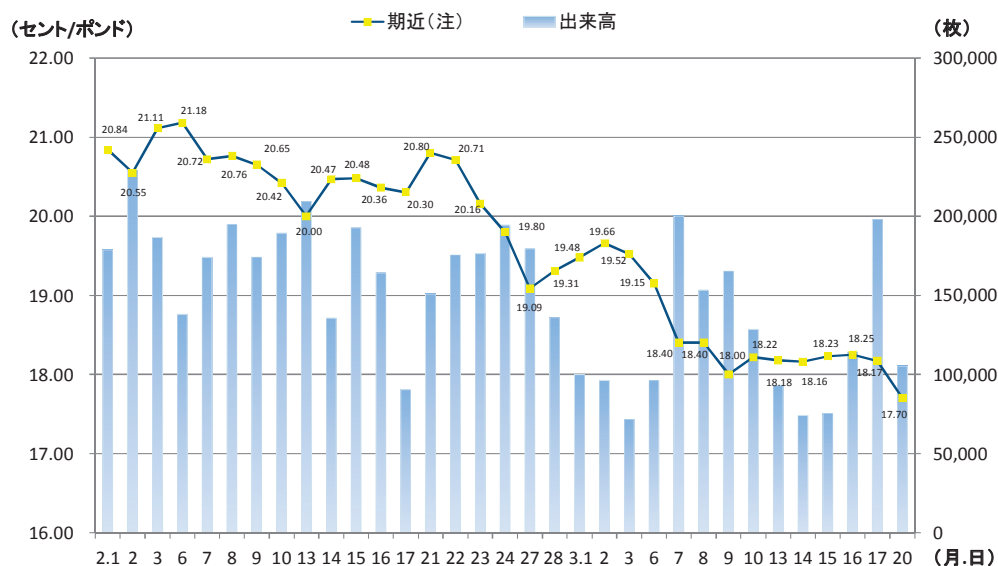
一方、メキシコとキューバは、砂糖の増産などに伴いそれぞれ149万トン（同17.5%増）、100万トン（同25.0%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（2/1～3/20）

～ 20セント台を割り込み、1ポンド当たり17.70セントまで下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）

注：2月は期近3月限、3月は期近5月限。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2017年2月の推移を見ると、砂糖生産量の減少により国内価格が上昇しているインドにおいて、輸入関税の撤廃もしくは引き下げの可能性が高まったことにより世界の砂糖需給のひっ迫化が再び見込まれたことから、6日は1ポンド当たり21.18セントの値を付けた。

しかし、「砂糖輸入量は、市場の予想に反して150万トン程度にとどまる」とのインド砂糖貿易協会の予測により下落傾向となり、13日は同20.00セントまで値を下げた。その後、国際砂糖機関（ISO）が、2017/18年度の世界の砂糖在庫量は依然として低水準にとどまるとの見通しを発表したことから、21日は同20.80セントまで上昇した。その後、インドの輸入関税撤廃に対する懐疑的な観

測が市場に広まったことやブラジル中南部地域の生産見通しが改善していることが要因となり、24日に20セントを割り込み、28日は同19.31セントの値を付け納会した。

5月が限月となる3月に入ると、2日に同19.66セントまで上昇したものの、その後反落し、7日以降は18セント台で推移した。この背景としては、インド政府が輸入関税撤廃は当面ないとの見解を示したことや、メキシコが輸出認可を取り消した米国向けの砂糖を市場に放出する可能性などがある。さらに、ブラジルのサトウキビ生育状況が良好なことを受け、2017/18年度は世界の砂糖需給が緩むとの見通しが高まり、20日は同17.70セントに値を下げた。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年3月時点予測）

ブラジル

2016/17年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：911万ha（前年度比5.3%増）

生産量：6億8195万トン（同2.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4060万トン（同15.4%増）

輸出量：2870万トン（同14.2%増）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれたため、911万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加が見込まれるものの、サトウキビの新植が進まず単収は低下するため、生産量は6億8195万トン（同2.5%増）と、わずかな増加にとどまると見込まれている（表2）。

一方、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合を増やしていることや製糖歩留まりが向上していることなどから、砂糖生産量は、4060万トン（同15.4%増）とかなりの増加が見込まれている。さらに、連邦政府が、エタノール販売に係る社会負担税を1月に再導入したことから、今後、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合をさらに増加させる可能性も考えられる。

砂糖の増産に伴い、輸出量も2870万トン（同14.2%増）とかなりの増加が見込まれている。

他方、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）^{（注1）}が2016年12月中旬に公表したサトウキビなどの2016/17年度生産見通しによると、サトウキビ栽培面積は911万ヘクタール（同5.3%増）、生産量は6億9454万トン（同4.4%増）と、ともにやや増加が見込まれている。また、砂糖生産量は3981万トン（同18.9%増）と大幅な増加が見込まれるのに対し、エタノール生産量は2786万キロリット

ル（同8.5%減）と、かなりの減少が見込まれている。

また、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注2）}が発表した2016年4月～翌2月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、5億9583万トン（前年同期比0.4%減）と前年度並みであったものの、砂糖生産量は3529万トン（同15.3%増）とかなり増加している。これは、サトウキビ1トン当たりの産糖量が59.2キログラム（同15.8%増）とかなり増加していることや、企業が砂糖への仕向け割合を増やしているためとみられる。なお、同報告によると、エタノール生産量は、2516万キロリットル（同8.2%減）とかなり減少した。また、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2392万キロリットル（同11.6%減）となった。このうち、含水エタノール^{（注3）}の国内販売量は、在庫量の減少などに伴い、エタノール価格が高騰したため、1327万キロリットル（同18.2%減）となった。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、2月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.74リアル（101円〈2月末日TTS：1リアル＝37円〉）と、ガソリン小売価格の同3.62リアル（134円）の70%^{（注4）}を上回っている。このため、含水エタノールのガソリンに対する優位性は低下していると考えられる。

さらに、政府は3月17日、2010年に撤廃したエタノールの輸入関税（20%）の再導入を検討することを発表した。この背景には、2016/17年度

のエタノール生産量の減少などにより、米国からのエタノール輸入量が急増したことにより、国内で製造されたエタノールの流通量が抑制されていることがあると思われる。また、例年、エタノール取引価格が上昇する製糖期間の端境期において、取引価格が1月中旬から下落しており、北東部の砂糖エタノール製造企業は、国内産業を保護するよう政府に要請している。

(注1) 主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農務省直轄の機関。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注3) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

(注4) 一般的なフレックス車のエタノール燃料効率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

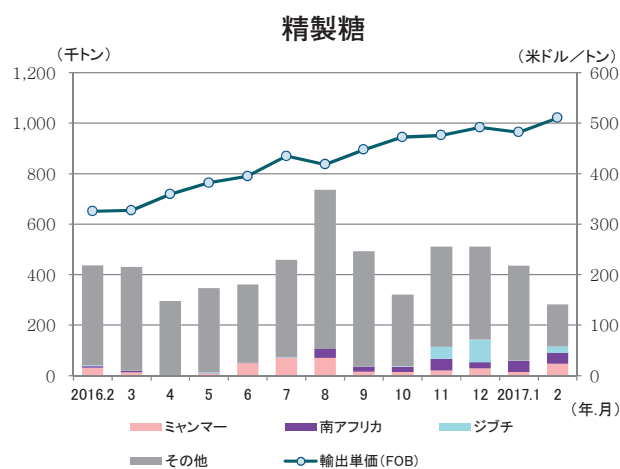
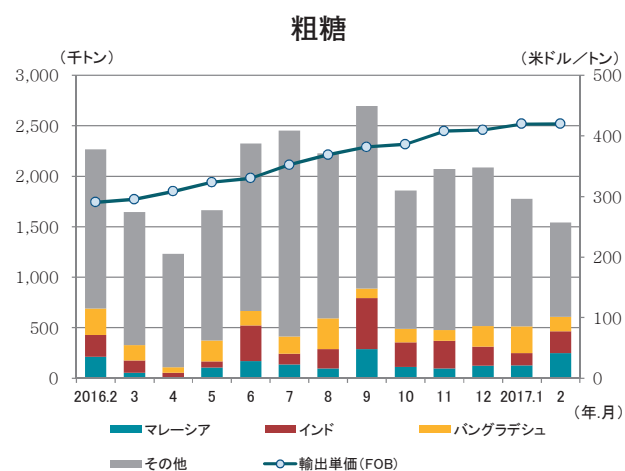
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度		2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		8,811	9,004	8,655	9,111	9,111	5.3
サトウキビ生産量		658,822	634,767	665,586	681,952	681,952	2.5
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	40,500	40,600	15.4
	輸入量	--	--	--	--	--	--
	消費量	12,640	12,400	12,000	12,000	12,000	0.0
	輸出量	27,053	24,666	25,124	28,700	28,700	14.2
	期末在庫量	2,296	2,543	613	413	513	▲ 16.3
	期末在庫率	18.2	20.5	5.1	3.4	4.3	▲ 16.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2250万トン（同17.8%減）

輸出量：146万トン（同64.5%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。このため、砂糖生産量も、2250万トン（同17.8%減）とかなりの減少が見込まれている（表3）。

インド砂糖製造協会（ISMA）は3月初旬、2016/17年度の砂糖生産見通しを発表した。これによると、1～2月にかけてマハラシュトラ州やカルナタカ州などで当初の予想以上に単収が低下していることなどから、同年度の砂糖生産量は、1月下旬の生産見通しより精製糖換算で100万トン下方修正され、2030万トンと見込まれている。また、ISMAが発表した2016年10月～翌2月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、1625万トン（前年同期比18.5%減）となった。地域別に見ると、サトウキビ栽培面積が拡大し、最大の生産州になると見込まれているウッタルプラデシュ州では625万トン（同16.7%増）と大幅に増加した（図4）。一方で、マハラシュトラ州やカルナタカ州は、それぞれ412万トン（同41.7%減）、205万トン（同43.3%減）と大幅な減少となった。これは、干ばつの影響でサトウキビ生産量が減少し、製糖工場が、原料不足から早期の操業終了を余儀なくされているためである。

中央政府は、砂糖の減産により2015年末から国内の砂糖価格が高騰していることを受け、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図るため、2016年6月中旬以降、粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除いた砂糖の輸出に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、製糖企業に対する砂糖在庫量の上限（注）を2017年4月まで設定している。これらにより、砂糖輸出量は、146万トン（前年度比64.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸入量は、213万トン（同11.8%増）とかなりの増加が見込まれており、同国は純輸出国から純輸入国へ転ずる可能性が高まっている。

また、現地報道によるとマハラシュトラ州の製糖工場は、再輸出することを目的に粗糖100万トンの輸入を申請するとともに、輸出関税の免除期間を6カ月以内から3～4年に延長するよう政府に要請している。同州では、生産量の大幅な減少により砂糖価格が高騰していることから、再輸出に伴う免除期間を延長し、一時的に国内に供給することで需給を均衡させる意図があると推察される。

中央政府は3月14日、かねて検討してきた輸入関税の撤廃もしくは引き下げを、当面は実施しない考えであることを公表した。中央政府は、2016/17年度の砂糖生産量2250万トンと前年度からの繰越在庫量770万で、国内需要を十分賄えるとの見解を示している。

(注) 中央政府は、貿易業者に限定していた砂糖在庫量の上限設定を製糖企業にも適用することとし、各製糖企業が保持できる在庫量は、2016年9月末時点で

は2015/16年度の砂糖生産量の37%、同年10月末時点では同24%を上限と設定していた。

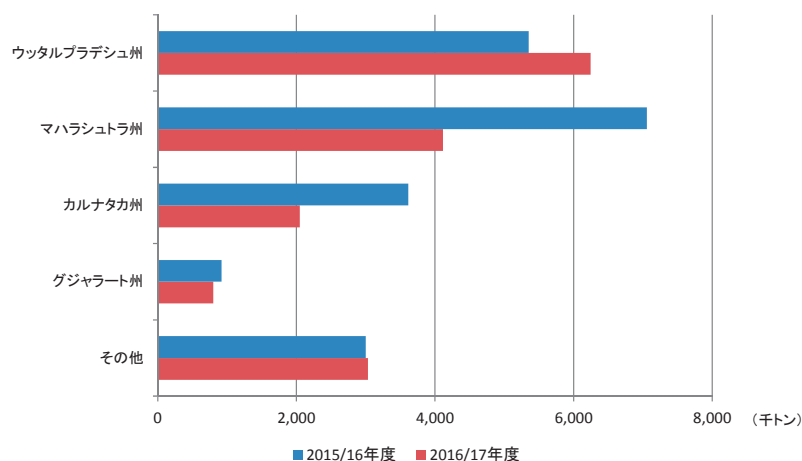
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5
砂糖	生産量	26,580	30,616	24,500	22,500	▲ 17.8
	輸入量	1,349	1,303	2,500	2,128	11.8
	消費量	26,295	27,842	27,826	28,200	1.3
	輸出量	2,742	2,608	4,105	1,458	▲ 64.5
	期末在庫量	8,223	9,692	7,036	2,006	▲ 71.5
	期末在庫率	31.3	34.8	25.3	16.8	▲ 71.9

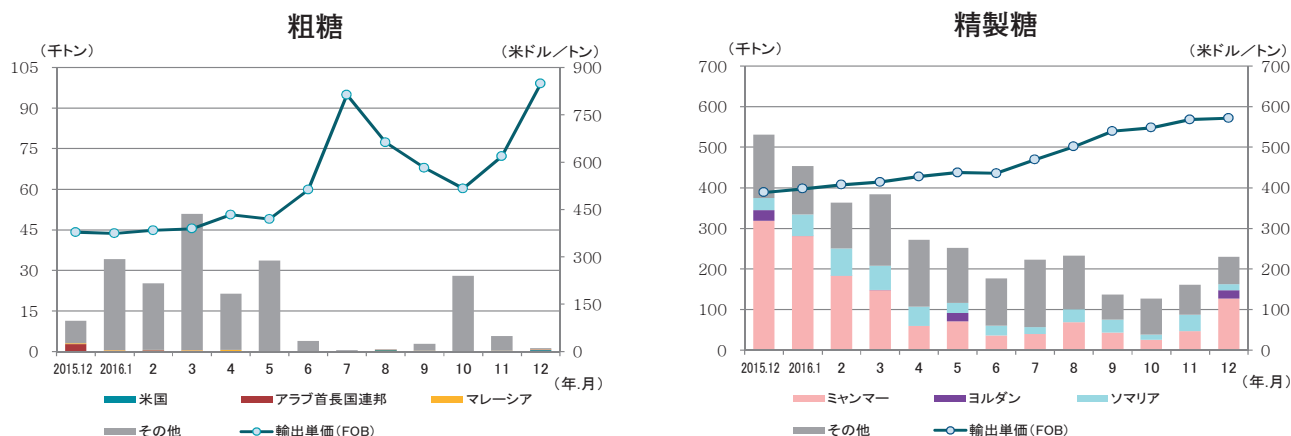
資料: Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017]

図4 インドの地域別甘しゅ糖生産実績 (10月～翌2月の生産量)



資料: ISMA
注: 精製糖換算。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）

生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1080万トン（同14.2%増）

輸入量：402万トン（同35.2%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。これは、最大生産地域である広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加に加えて、良好な生育状況が要因である（表4）。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1080万トン（同14.2%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10月～翌2月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で716万トン（前年同期比15.7%増）とかなり増加した（図5）。これは、サトウキ

びおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しや糖が616万トン（同15.2%増）、てん菜糖が100万トン（同19.1%増）と、ともに増加したことによる。なお、CSAが先に発表した2016/17年度砂糖生産見通しによると、精製糖換算で、甘しや糖が896万トン（前年度比14.1%増）、てん菜糖が104万トン（同22.4%増）とともに増加し、全体で1000万トン（同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。特に、広西チワン族自治区の甘しや糖生産量は600万トン（同17.4%増）、内モンゴル自治区のてん菜糖生産量が47万トン（同65.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

さらに、中央政府は1月、備蓄砂糖約25万トンを国内企業へ売り渡した。これにより、2016年10月から4回の入札が実施され、1月時点で合計約65万トンが企業に売り渡されたこととなる。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。このため、砂糖輸入量は、402万トン（同35.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

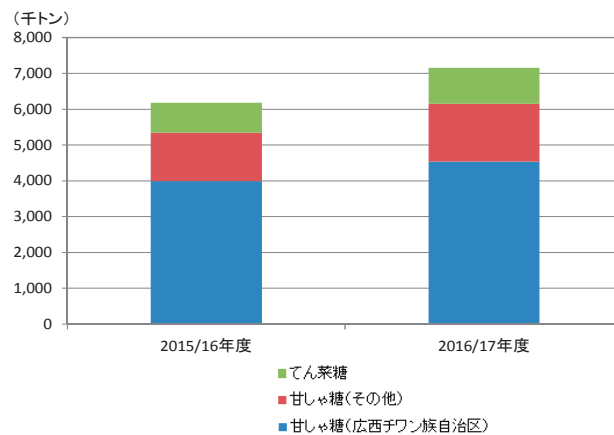
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0
砂糖	生産量	14,476	11,474	10,869	10,804	14.2
	輸入量	4,054	5,354	3,700	4,015	▲ 35.2
	消費量	16,150	16,600	17,250	17,250	1.1
	輸出量	51	64	80	83	▲ 50.3
	期末在庫量	7,141	7,305	5,731	3,217	▲ 43.9
	期末在庫率	44.2	44.0	33.6	17.2	▲ 44.5

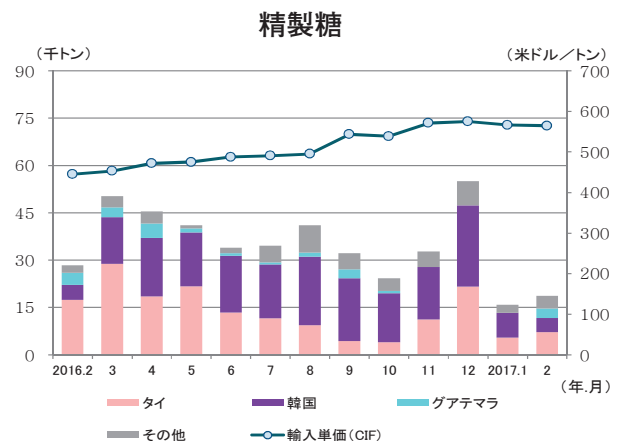
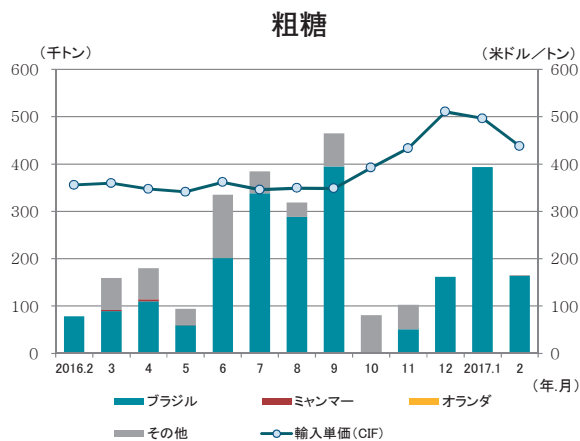
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」

図5 中国の砂糖生産実績（10月～翌2月の生産量）



資料：CSA
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1707万トン（同12.7%増）

輸入量：315万トン（同15.4%減）

2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表5）。2017年10月以降の生産割当の廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった

2014/15年度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1707万トン（同12.7%増）とかなりの増加が見込まれている。

砂糖の増産に伴い、砂糖輸入量は、315万トン（同15.4%減）とかなりの減少が見込まれている。

一方、欧州委員会が2016年12月下旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、砂糖生産量は精製糖換算で1666万トン（同11.6%増）とかなり増加し、砂糖輸入量は350万トン（同0.3%増）と前年度並みにとどまると見込まれている。

表5 EUの砂糖需給の推移

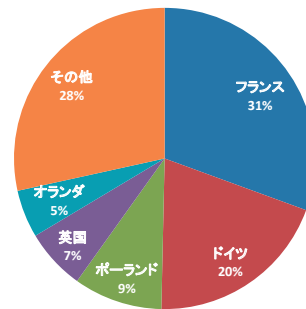
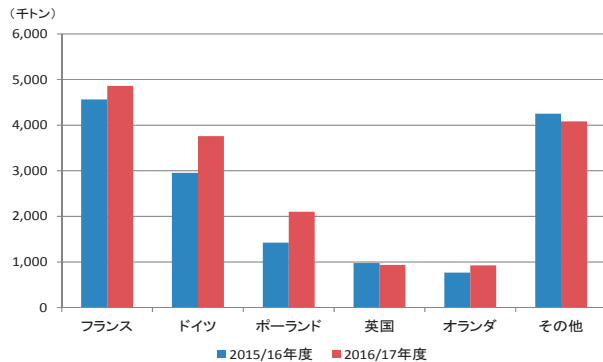
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8
てん菜生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7
砂糖	生産量	17,123	19,147	17,521	17,069	12.7
	輸入量	3,944	3,456	3,389	3,150	▲ 15.4
	消費量	19,286	19,245	19,429	18,954	▲ 0.1
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,467	▲ 6.7
	期末在庫量	8,799	10,599	8,993	8,747	▲ 1.6
	期末在庫率	45.6	55.1	47.4	45.0	▲ 1.5

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2016年12月時点での予測値。

注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。

注4：生産割合は2016/17年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2017年3月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

豪 州

2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）

生産量：3541万トン（同1.7%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：523万トン（同5.8%増）

輸出量：400万トン（同3.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量はやや増加するも 輸出量はやや減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）は、サトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3541万トン（同1.7%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。

サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（同5.8%増）と、やや増加が見込まれている。一方、

中国向けの減少などに伴い、輸出量は400万トン（同3.8%減）と、やや減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)は3月7日、2016/17年度および2017/18年度の生産見通しを発表した。これによると、2016/17年度の砂糖生産量は、収穫面積の拡大に伴うサトウキビ生産量の増加により、509万トン（同3.4%増）とやや増加が見込まれている。また、砂糖輸出量も429万トン（同3.6%増）と増加し、国際砂糖価格が高水

準にあることから、輸出額は、25億6500万豪ドル（2257億2000万円〈2月末日TTS：1豪ドル＝88円〉、同38.6%増）に上ると見込まれている。2017/18年度も、引き続き、収穫面積の拡大および生産量の増加が予想されることから、砂糖生産量は516万トン（同1.5%増）とわずかな増加が予想されている。砂糖輸出量は、430万トン（同0.2%増）にとどまると予想されるが、2017/18年度も国際砂糖価格は高水準を維持するとみられることから、輸出額は27億8000万豪ドル（2446億4000万円、同8.4%増）に上ると予想されている。

かねて交渉が進められていたインドネシアとの自由貿易協定（FTA）において、豪州、インドネシアの両国は2月下旬、2017年内の妥結を目指すことで合意した。現地報道によると、砂糖においては、インドネシア側が、豪州産の砂糖輸入に係る輸入関税を現行の8%から5%に引き下げることで合意に至った。これにより、インドネシアの豪州産砂糖に

係る輸入関税は、東南アジア諸国連合（ASEAN）域内と同率となることから、インドネシアの最大輸入先国であるタイとの競争力が増大し、市場シェアを拡大させる可能性がある。

また、2017/18年度以降の新たな輸出契約について製糖企業1社との交渉が難航していたQLD州砂糖公社（QSL）^{（注）}は3月7日、当該企業と大筋の合意に至ったことを発表した。これにより、当該企業と契約しているサトウキビ生産者が希望すれば、QSLを介しての輸出が可能となることからサトウキビ生産者団体であるCanegrowersは、両者間の合意は2017/18年度からの新たな砂糖の供給契約に向けた大きな前進であると評している。

（注）QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を扱っていたが、2015年の砂糖産業法改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出する従来の形態に加え、砂糖を輸出する企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	329	363	381	393	393	3.2
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	35,500	35,410	1.7
砂糖	生産量	4,306	4,773	4,946	5,230	5.8
	輸入量	159	170	76	110	45.3
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,152	3,995	▲ 3.8
	期末在庫量	1,162	1,068	587	577	▲ 1.7
	期末在庫率	86.3	79.1	43.5	42.6	▲ 2.1

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」

タイ

2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）
生産量：1億436万トン（同11.0%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1000万トン（同0.2%減）
輸出量：726万トン（同7.0%減）

2016/17年度の砂糖生産量は前年度並み、 輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、単収の増加が見込まれることから、生産量は1億436万トン（同11.0%増）と、かなりの増加が見込まれている（表7）。

しかし、長引く干ばつの影響により特に新植サトウキビの生育不良が見られることに加え、長雨により例年より約1カ月遅れの12月上旬からの収穫となったことから、製糖歩留まりの低下が予想され、砂糖生産量は、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みと見込まれている。輸出量は、中国向けの減少などに伴い、726万トン（同7.0%減）と、かなりの減少が見込まれている。

一方、タイ農業協同組合省農業経済局が先ごろ発表した主要農産物の生産見通しの中で、2016/17年度のサトウキビ収穫面積は、政府による生産者への適地適作の奨励や製糖企業によるサトウキビ栽培への転作促進により、145万ヘクタール（同1.8%増）とわずかな増加が見込まれている。また、生産量は、1億515万トン（同11.7%増）とかなりの増加が見込まれている。これは、サトウキビ生産者の肥培管理などの技術の向上により、単収の増加が見込まれていることなどが要因とされる。砂糖生産量も1094万トン（同11.8%増）とかなりの増加が見込まれており、これに伴い、輸出量も844万トン（同17.4%増）と大幅な増加が見込まれている。

政府は1月、民間企業と共同で、2017/18年度から今後10年かけて同国のバイオ産業を発展させる計画を発表した。同計画では、総額4000億バーツ（1兆3280万円〈2月末日TTS：1バーツ＝3.31円〉）近くが投資され、3段階に分けて展開される。第1段階では、バイオ燃料の生産拡大に向け、約510億バーツ（1693億円）が投資され、東部のラヨーン県や北東部のコーンケン県に工場の新設などが予定されている。

また、政府は、バイオ燃料やバイオプラスチックなどの原料となるサトウキビやキャッサバの確保のため、コメからの転作を引き続き積極的に奨励する意向を示しており、計画期間中にサトウキビ栽培面積を256万ヘクタールに拡大することを目標としている。

さらに、政府は、2017/18年度からの適用を目指し、砂糖産業関連法の改正（注1）に向けた手続きを開始した。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当（注2）を廃止するとともに、政府が設定している国内砂糖価格を固定制から変動制に移行するものとみられる。なお、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）（注3）によれば、変動制は、遅くとも2018年4月までに開始される。

現地報道によると、政府は、糖類を含む飲料への課税を導入する方針を明らかにした。これによると、政府は、卸売価格の20%を上限に、糖類の含有率に応じて課税率を定めるとともに、糖類含有率を抑

制した飲料に対しては、課税率の低減もしくは免除といった優遇を図るとしている。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、

同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

(注3) タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省（製糖関係）、農業協同組合省（原料作物関係）、商務省（砂糖の売買関係））とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

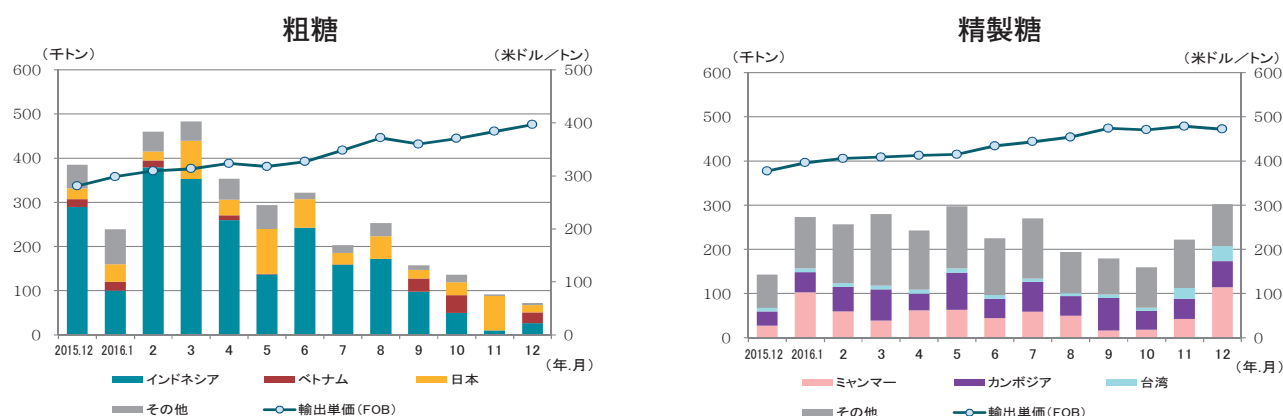
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (2月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	104,363	11.0
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,000	10,000	▲ 0.2
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,028	▲ 7.0
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	3,979	▲ 16.8
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	113.7	▲ 16.8

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

グアテマラ

2016/17年度（11月～翌10月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比1.5%増）

生産量：2415万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：295万トン（同0.5%減）

輸出量：205万トン（同0.8%減）

2016/17年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2016/17砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比1.5%増）、生産量は2415万トン（同1.3%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている（表8）。しかし、

製糖歩留まりが低下していることから、砂糖生産量は、295万トン（同0.5%減）と前年度並みにとどまるものと見込まれている。

これに伴い、輸出量も205万トン（同0.8%減）と前年度並みにとどまるものと見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (3月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	262	262	252	256	256	1.5
サトウキビ生産量	26,335	26,335	23,844	24,151	24,151	1.3
砂糖	生産量	2,949	3,130	2,966	3,050	2,950 ▲ 0.5
	輸入量	1	1	1	1	1 0.0
	消費量	910	900	900	900	900 0.0
	輸出量	1,993	2,411	2,066	2,150	2,050 ▲ 0.8
	期末在庫量	490	310	311	287	312 0.3
	期末在庫率	53.8	34.4	34.6	31.9	34.7 0.3

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, March 2017」